

歯科シリーズ

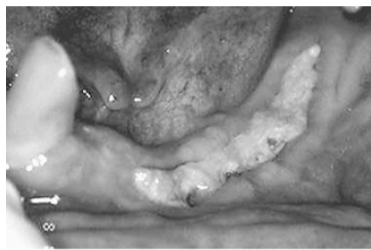
その1

新連載

痛みがあっても初めて行かなければと思つ歯科。急を要する場合があります。治療上の注意点を6回にわたり連載していきます。

骨粗鬆症の薬を服用されている方は歯科医師にお伝えください。

骨粗鬆症はご存じの通り、骨の量が減って弱くなり、骨折しやすい病気で、日本では、約1000万人の患者さんがいると言われます。その骨粗鬆症の治療に使われる内服薬で、ボナロンやベネットなどのビスフォスフォネート系薬剤(BP系薬剤)があります。BP系薬剤は骨量増加により骨折を予防する



顎骨壊死

このBP系薬剤の副作用で、歯科治療時の顎骨壊死・顎骨髄炎の発現が報告されています。



BP系薬剤による顎骨壊死は、典型的には歯ぐきの部分の骨が露出します。無症状の場合もありますが、感染が起ると、痛み、あごの腫れ、膿が出る、

国内で販売されているBP系薬剤一覧

・注射剤	・経口製剤
製品名(一般名)	製品名(一般名)
アレディア (パミドロン酸ナトリウム)	ダイドロネル (エチドロン酸二ナトリウム)
オンクラス トテイロック (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	ファサマック ボナロン (アレンドロン酸ナトリウム水和物)
ビスフォナール (インカドロン酸二ナトリウム)	アクトネルベネット (リセドロン酸ナトリウム水和物)
ゾメタ (ゾレドロン酸水和物)	

歯のぐらつき、下唇のしびれなどの症状が出現します。原因がはっきりとはわかっていません。主には抜歯や歯周病治療を契機に発症して、標準的な歯科治療では良くなりません。

口内清掃が重要

現状では、歯垢や歯石の除去など清掃で口内細菌を減らすことが重要です。また、経口薬の場合は服用期間が3

年未満で、ステロイド剤の使用や糖尿病患者、糖尿病、喫煙などのリスク要因がない人は、休薬する必要はありません。副作用期間が3年以上、または3年未満でもリスク要因がある人については、主治医と歯科医師が骨粗鬆症治療中断のデメリットと歯科治療の必要性をよく相談した上で、可能なら3カ月程度の休薬が望ましいと言われています。

まずはお薬手帳を見直し歯科治療前に歯科医師に相談してみてください。代々木歯科医師 関比呂志

年に1度は健診を!

皆さんはもう受けましたか

秋の健康診断(以下「健診」)のシーズンがやってきました。病気の中には症状が出てくると、早期発見が必要なものがあります。年に一度は健診を受けたいものです。

当健診センターで病気が発見されたケースを紹介いたします。

●初期の乳がんを発見された女性が、受診した病院にて子宮がんも見つかり治療できました。

●40代の男性は健診で腎臓がんを早期に発見できたため手術で治せました。

健診で病気を

早期発見

健診では病気やその兆候の発見を目的とし

ています。健診の大切なことを考えてみましょう。会社や学校などで行われている健診は労働安全衛生法で義務付けられています。また、市区町村などの自治体も実施している住民健診は受診の義務化はされておらず、あくまでも任意のものです。

健診結果を会社や学

校は管理し、職場、学校環境の改善を行い、労働者、生徒個人に健康管理を促します。ま

た健康への意識を高める目的もあります。受診した本人や家族が1番留意しなければいけません。いつまでも元気であるためには病気の早期発見・早期治療はもちろんの事、予防が重要、つまり病気にならない身体づくりがキーワードのひとつなのです。

生活習慣の見直し

病気が突発性のものもありますが、多くの疾患は原因となる要素がいくつかあり、日常生活の中で気付かぬうちに進行していきま



腹部エコー中

満ち広がってきています。もはや成人だけの病気でありません。

また、人間ドックは健診より多くの病気を発見できます。出来れば

健診で健康な

体づくりを

最近、無病という言葉が耳にします。自分の身体を知ることが初

めの一歩ではないでしょうか?病のない身体づくりのためにまずは健診を受けましょう。

習慣を正すこととは予防につながります。健診で疾患が発見されたときには病気が進行しているという事も少なくありません。そんな事にならないためには定期的な受診が必要不可欠です。自動車だつて車検があるのですから。

現在糖尿病の可能性が否定できない人は1320万人と推定され、20歳以上の4・7人に1人は糖尿病の可能性があると推定されています。その半数弱は糖尿病と診断されず、適切な治療を受けていない状況です。診断の為に日替わりで2回血糖値を測らなければならなかったことが、その原因の一つとも言われています。



くすりの話あれこれ 57

糖尿病の新しい診断基準

白根加代子(薬剤師・たくみ外苑薬局)

てしまうことが後を絶ちませんでした。新しい診断基準では、1回の採血で血糖値とヘモグロビンA1cが両方とも基準を超えれば、再検査を行わずに糖尿病と診断できます。ヘモグロビンA1cは血糖値に比べて食事の影響を受けず、1~2か月前の血糖の状態を示す指標として優れているからです。今回の改定によって、より早く、より多くの患者さんが糖尿病の治療を始められることでしょう。

大気汚染医療費助成 更新手続きのお知らせ

8月より更新申請の手続きが始まっています。医療券の有効期限は誕生日の末日になっています。更新手続きをしないと、継続して医療費助成が受けられなくなります。書類が送られてきたら早めに病院に提出しましょう。

代々木病院では、東京公害患者と家族の会と共催で9月9日(木)午前10時から12時まで説明・相談会を行います。